

経営理念	<p>【教育目標】 のいちっ子 つながるころ のびゆく子</p> <p>【経営目標】 『幼児一人一人を大切に、自ら学ぶ意欲と環境にかかわる力を培う幼稚園』をめざす。</p> <p>〈子ども像〉 ○じょうぶな からだ ○きれいな ころ ○かがやく ひとみ</p> <p>〈幼稚園像〉 ○意欲的に遊ぶ子どもを育つ幼稚園 ○自分で考え行動し、自らしようとする子どもを育てる幼稚園 ○友達と仲良く、思いやりのある子どもの心を大切に育てる幼稚園</p> <p>○豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを表現する子どもがいる幼稚園</p> <p>〈教師像〉 ○子どもが自分でやってみようとする意欲を大切に自立していく力を育てる教師 ○一人一人の子どもに寄り添いながら援助する教師 ○豊かな環境作りを努め、子どもらしく思いきり楽しく遊ぶ生活を保障する教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師</p>
------	--

今年度の重点目標		評価項目	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
☆ 保育・ 教育活動の 充実	① 幼児理解を基に子ども一人一人が遊び込めるようになるための保育をする	① 幼児一人一人が自己発揮できるための指導を行う【保育者の援助】	他職員の話や聞き取りで捉えや考え方が広がり、幼児理解のスキルが上がってきた。子どもの姿から今必要な援助を考たり、良いところを伸ばそうと意識をしたりしながら関わるようにした。思いを受け止めてもらい、言葉で知らせようとする姿が増えてきたことは成果である。園全体で、同じ方向性をもち子どもたちをみているということの大切さを改めて感じた。良いところを伸ばすことや子どもの姿を意欲した記録の取り方には難しさがあるため、今まで以上に子どもたちの心に寄り添った援助を心掛けていくという課題が残った。	B	職員同士が、他の職員の意見を聞こうとしたり意見が入りやすくなっており、見方や捉え方に柔軟さが出てきている。また、担任ができたことと確信しているということは、相当やっていると見えない。それを感じているのは大きな成果である。	A	子どもの育ちを正しく捉え、子ども一人一人に寄り添った援助を大切にしていく。また、今年度の成果である子どもの姿を具体的に記録することや園内研修で幼児理解が深まるような協議内容の工夫を継続していく。
		② 子どもの主体的な学びを保障するための園庭の環境構成を行う【環境構成】	子どもたちの興味や関心をもてるような環境を整えていく中で、子どもの“やりたい”という姿から、必要と思う素材や教材を準備することで、子どもたちが自分が見たい遊びに必要な道具を探したり、友達とアイデアを出したりしながら遊びを楽しむような経験につながった。教材研究を重ねたことで、保育実践に生かすことができたが、季節ならではの物の種類や量なども含め、アイデアやイメージが広がっていくような環境構成や子どもの姿に応じた再構成をするなどの難しさから工夫改善をする必要がある。	B	今年の学びを活かし次年度はもっと職員の力量が上がっていくのではないだろうか。達成状況を見ても、十分できていると感じるが、失敗も経験しながら見直しをもった計画を立て実行できるよう、次年度の職員の資質向上へ期待を込める。	B	園庭の環境が充実できるよう、栽培物の一年間の計画を見直し、草花を植えたり、子どもの姿に応じた再構成を行うなど、遊びの充実につなげる。今後も教材研究を行いながら、子どもの主体的な学びを保障できるように環境構成の充実を図る。
		③ 幼児の発達や学びを踏まえた保育活動を展開する【指導計画】	年間指導計画や毎月の指導計画を基に、日々の子どもの姿を振り返り、次の日につながるよう記録内容を見直したり話し合いをしたりしながら、記録を整理することができた。そのことで、指導計画の内容がより子どもの姿に添ったものとなってきた。悩みを他の職員に具体的に相談し共有しながら、子どもの楽しんでいるところや育っているところなど記録内容を意識する力となり、幼児理解にもつながってきている。	A	子どもの姿を意識しながら、記録を取ってきたことが、指導計画の見直しにつながっており、文面からも読み取れるほどである。これは大きな成果である。	A	子どもの姿を振り返り次の日につながる記録を意識して、今後も指導計画の見直しを行う。また、週案や個別記録では、具体的な保育内容に視点をおき、子どもの発達や学びに添った保育活動を展開する。
◆ 職員 向上育 成・ 運 営	② 保育の意図や子ども理解を保護者と共有・共感する	① 自ら意欲的に研修に参加する【研修】	計画的に、年間6回の園内研修や月1回の文献研修を園長、教頭、担任、支援員とともに一同を介して同じ研修を受けることの大切さが改めてわかった。研修を積み重ねたことで、育ちにあった遊びや教材・環境や援助等学びがあった。他学級での実践から学んだことを保育に取り入れられるように、学年間で話し合い、生かせる場所を取り入れてきた。研修参加後に職員会で報告したり、学んだことを意識したり考えたりして保育実践に取り組んだりしていることは、大きな成果であり、教師の意欲にもつながってきた。	A	全職員で同じ研修を行い、同じ方向性をもち学びを深めていこうとする姿勢は素晴らしい。自ら意欲的に参加して、その結果、成果も大きく見られているということが成果である。	A	今後も引き続き、意欲的に研修に参加し、学びや気づきを他の職員へ発信していく。全職員で同じ方向性をもち保育実践を行えるよう、話し合いを深め保育の資質向上に努める。
		② 学級便りの内容について工夫・研究をして配布する(情報提供)	学級だよりでは、子どもの姿の中に育ちや保育の意図、教師の思い等を意識しながら作成することができた。保護者が見たくなるようなレイアウトや写真を選び吹き出しをつけたり工夫してきた。しかし、子ども達の育ちや保育の意図がうまく伝わらないことがあり難しさを感じ、工夫改善の課題が残った。	B	お便りは、見やすく楽しいものとなっている。写真も使っているため、子どもと共に見ながら話をするきっかけにもつながっている。作っている写真があると、その後の完成形を載せるなど、もうひと工夫をしたり、保護者の知りたいことを意識したりしてみるのもいいのではないだろうか。	B	学級だよりを配布する回数や内容の検討を重ね、保護者が読みたくなるような内容や見たくなるようなレイアウトの工夫改善を引き続き行う。
◎ 地域に 開か れた 園 づ くり	② 地域の方と幼稚園とが身近に感じられるよう支援する	① 保護者に対して子育ての支援を行う【保護者への支援】	一人一人の姿や学級全体について、口頭やお便りで、できるだけ具体的に話すように努力できた。また、学級懇談や個人懇談とは別に、個別に声をかけ面談をしたり相談習慣をとるなど工夫をしたことで、各学級数人ではあったが、担任とゆつくり話をする機会ももてたことで、保護者から担任へ声が掛けやすくなってきたことは前進である。しかし、うまく伝えきれないことがあるため、言葉のかけ方、内容の伝え方の難しさを改めて感じ課題となった。	B	相談週間を実行でき、保護者支援につながったことは成果である。言葉のかけ方や伝え方を工夫しながら今後も取り組んでいってほしい。	B	保護者が安心して子育てができるよう、今後も言葉の掛け方や伝え方を工夫していくことを意識していく必要がある。また、預かり保育を利用されている保護者への対応が少なかったため、全保護者に対し、子育て支援ができるようにする。
		② 保護者との信頼関係を構築する(地域との連携)	コロナ禍での交流では、できることを最大限に考え行ってきた。未就園児に園庭を開放したり、園児との触れ合いの場を設けた。また、地域の方に、芋のツル植えを教えていただいたりコマ回しや羽子板などお正月遊びを中心とした遊びや絵本の読み聞かせなどを行うことができた。その様子や活動を掲示し保護者に発信してきた。教師が地域に興味をもち、子どもにもわかるように様子を伝え、地域と関わられるよう意識したことは成果であるが、地域との連携の仕方は引き続き考えていく必要がある。	B	保護者にとって、小学校や保育所との交流は分かると思うが、地域との交流がどんなものかあまりわかっていないかもしれない。園から保護者への発信の仕方を工夫し、保護者へ伝わっていくことを期待する。	B	職員が地域へ目を向けて、意識して子どもたちに発信していくことを続けながら、園からは、掲示やお便り、参観日等を使いながら、発信の仕方を工夫する。また、他に地域とつながる機会はないか等も職員で考え実践していく。